



【読書】キャラクター「おっほん」

# 札幌市立本町学校

## 読書活動の取組

### 読書センターとしての機能

#### ■図書委員会 スタンプラリー

図書館をもっと利用してもらおうと始まった取組です。1冊借りるごとにスタンプがたまり、多くの本に触れてもらうために子どもたちが話し合いを重ねて決めました。

たくさん借りると名前が飾られるなど、本や図書室に対する興味をもってもらうためにがんばりました。

#### ■読書ウィーク

一人一冊本を用意し、そこに紹介カードをはさんで教室の本コーナーに並べます。朝読書の時間や国語の読書の時間を使って、友達が紹介している本の回し読みを行いました。

読んだ後には感想をカードに書いて交流することで、読書の楽しさを共有できました。また、友達の好きな本を知ることができ、ふだん読まない本に触れる機会となりました。

### 学習センターとしての機能

#### ■学級カード

各学級に40冊貸し出しができる学級カードを用意し、朝読書や国語科、社会科、調べ学習などで活用しやすいようにしています。学習に必要な資料を学級ごとに使えるようにすることで、子どもたちは目的をもって本を選び、必要な情報を探しながら学習を進めています。

また、ブックコンテナやワークスペースの棚を活用し、学級カードで借りた本を学級文庫のように活用している学級もあります。

名前	
本の題名	図書室の本、学級文庫
おすすめポイント	
読んだ人	
読んだ人	
コメント	
読んだ人	
コメント	



### 情報センターとしての機能

#### ■情報にアクセスしやすい図書室

子ども達が自分たちでほしい情報にたどり着ける図書室を目指して、赤木かん子さんの本を参考に、本に分類シールを貼り、何の本なのか、どこにあるのかが分かりやすくしています。シールが貼ってあることにより、内容が近い本であることに気が付く姿も見られています。

#### ■パートナー校との連携

パートナー校である中学校の図書委員会の生徒が作成した本のポップを、図書室に掲示しました。中学校の視点でまとめられた紹介文やデザインに触れることで、子どもたちは本の魅力を新しい角度から知る機会になりました。

図書室を通して学校外の情報に触れ、自分の読書につなげていく初めての取り組みでした。

